KinoDen
Kinokuniya Digital Library

KinoDenは、紀伊國屋書店がご提供する学術和書電子図書館サービスです。読みやすいビューア、未購入タイトルも含めた全文検索（一部対象外あり）、試し読み・リクエスト機能など、長年の経験を活かし「本当に使われる電子図書館」をご提供致します。

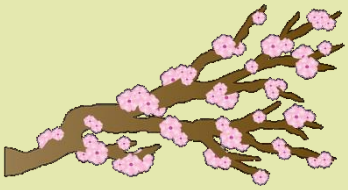
クレス出版

No.KD0386
2022年8月

【復刻版】
全3巻＋別冊1

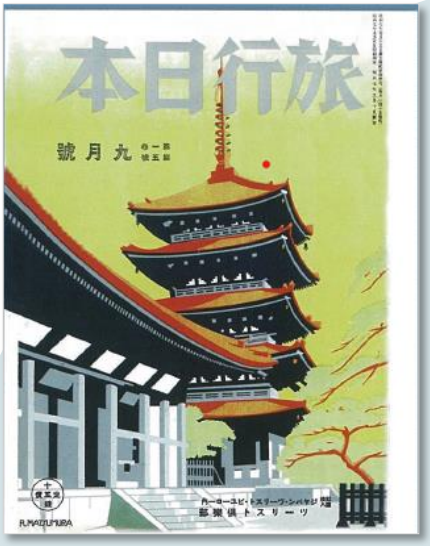
『旅行日本』

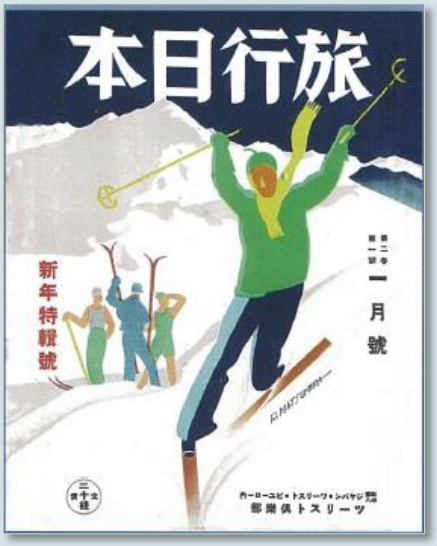
昭和7年5月～昭和9年10月

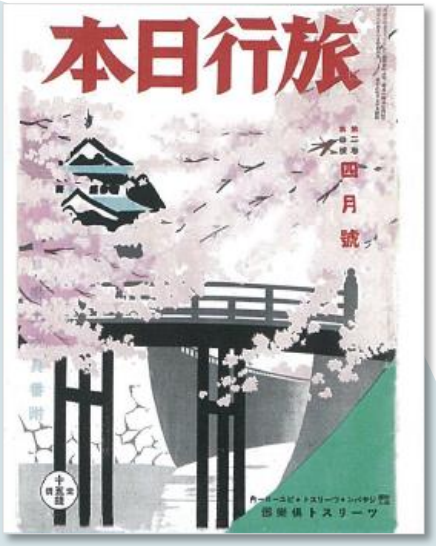


発行＝東京ツーリスト倶楽部　　解説＝荒山正彦（関西学院大学文学部教授）

ジャパン・ツーリスト・ビューロー内ツーリスト倶楽部により刊行された機関雑誌全30号を復刻。







◇内容見本◇

復刻版巻数	原本巻号	原本発行年月
第1巻	第1巻1号～第2巻3号	1932年5月～1933年3月
第2巻	第2巻4号～第3巻1号	1933年4月～1934年1月
第3巻	第3巻2号～第3巻10号	1934年2月～1934年10月

SalesID	底本ISBN	シリーズ名称	出版年月	同時アクセス1（本体価）	同時アクセス3（本体価）
KS00000777	9784866700953	復刻版　旅行日本〈全3巻+総目次・解説〉（分売不可）	202011	¥75,900	¥176,000

◇旅行団体と雑誌刊行の変遷◇

1906年　「大阪探勝わらじ会」創設
1913年　鉄道院協力のもと創設されたジャパン・ツーリスト・ビューローが機関誌『ツーリスト』を創刊
1914年　六甲山をはじめ近畿地方での山登りを目的とした旅行会「日本アルカウ会」創設
1921年　「東京アルカウ会」が誕生。「日本アルカウ会」同様に定期的な旅行会を催し、会員による団体旅行を組織
1922年　「東京アルカウ会」が講演会や展覧会、出版を行う目的で「日本旅行文化会」を立ち上げ。
　　月刊の会報誌『旅』を発行
1923年　会報誌『旅』は終刊となり、「日本旅行文化会」は鉄道省、南満州鉄道、日本郵船、大阪商船、
　　ジャパンツーリストビューローなどの大きな機関が加盟する「日本旅行文化協会」へと改組
1924年　「日本旅行文化協会」が新たに月刊雑誌『旅』を創刊
1924年　大阪商船の広報雑誌『海』が創刊
1926年　「日本旅行文化協会」は「日本旅行協会」へ名称を変更
1932年　ジャパン・ツーリスト・ビューロー内に旅行団体「ツーリスト倶楽部」が設けられ、月刊誌『旅行日本』を創刊
1934年　『旅』を発行する日本旅行協会と『旅行日本』を刊行するツーリスト倶楽部は合併し「日本旅行倶楽部」
　　として再スタート。雑誌『旅』の発行は「日本旅行倶楽部」によって継続
1934年　「ジャパンツーリストビューロー大連支部より『旅行満洲』が刊行され後に『観光東亜』『旅行雑誌』に改題
1939年　「朝鮮総督府鉄道局内日本旅行協会朝鮮支部」より『観光朝鮮』が刊行され後に『文化朝鮮』に改題

◇刊行の言葉◇

明治四五（一九一二）年に設立されたジャパン・ツーリスト・ビューローでは、昭和七（一九三二）年に創立二〇周年を迎え、旅行のクラブ組織「東京ツーリスト倶楽部」が創設された。ジャパン・ツーリスト・ビューローは外客の誘致と斡旋を目的として設立された機関であったが、東京ツーリスト倶楽部は趣味としての旅行を普及させるために、団体旅行の企画、展覧会・映画会・講演会の開催などが活動の目的とされた。

また、ジャパン・ツーリスト・ビューローによる月刊の機関雑誌『ツーリスト』が、和文欄と英文欄を持ち、日本を含めた世界各地の旅行地の紹介や、旅行界への指針とその動向などを発信する媒体であったのに対して、このたび復刻される『旅行日本』は、東京ツーリスト倶楽部の機関雑誌として、日本国内と朝鮮・満洲・台湾などの案内を軸とした旅行情報誌であった。

『旅行日本』には、この時代の旅行の様子がとても具体的に記録されている。初詣、スキー、観梅、桜の花見、新緑、夏山登山、海水浴、キャンプ、紅葉狩りといった季節ごとの旅行や、募集型の団体旅行記事、巻頭のグラビアページ、毎号変わる雑誌の表紙デザイン、そして各地の旅館の広告など、昭和初期の旅行文化史をたどるうえで、たいへんに興味深い記事が並ぶ。

しかし一方でこの雑誌は短命であった。昭和七（一九三二）年五月に創刊号が発行され、以後順調に月刊での発行が続けられたが、昭和九（一九三四）年一〇月の第三巻第一〇号で終刊を迎えた。終刊の年に、月刊雑誌『旅』を発行していた日本旅行協会と東京ツーリスト倶楽部が合併し、『旅行日本』も『旅』へと吸収合併されることとなったからである。

『旅行日本』は発行わずか三年間、全三〇号の雑誌にすぎないが、そこには同時期の旅行のあり様がとても鮮やかに描かれている。『旅行日本』を所蔵する公的機関はとても少なく、これまで研究で活用されることはほとんどなったが、今回の復刻によって閲覧が容易になり、旅行史を含む近代日本文化史の研究資料がまたひとつ整うこととなる。なお、このたびの復刻では別巻を設け、総目次を掲載しあわせて内容の解説を掲載する予定である。

荒山正彦（関西学院大学文学部教授）